



2017年9月末の全国信用金庫の預金・貸出金動向（速報） 貸出金残高が約18年ぶりに70兆円台を回復

高牟礼 貞宜

ポイント

- 2017年9月末の預金残高は141.1兆円と過去最高を更新した。前年同月比の預金の増減率は2.4%と、引き続き2%台の伸びを維持している。
- 貸出金残高は70.2兆円と99年12月以来の70兆円台を回復した。前年同月比の増減率も3.0%と、95年11月以来の水準となった。
- 預金種類別にみた預金全体の伸び率に対する寄与は、要求払預金のプラスに対して定期性預金のマイナス傾向が鮮明になっているが、定期性預金も17年5月を底にややマイナス幅を縮小させつつある。
- 貸出先業種別にみた貸出金全体の伸び率に対する寄与は、引き続き不動産業や住宅ローンの寄与が大きいものの、それ以外の業種においてもマイナスを縮小させており、永くマイナスであった卸・小売業、製造業についても、ほぼマイナスを脱した。

※本稿の計数は、10月18日時点の計数であり、今後修正される可能性がある。

1. 2017年9月末の預金・貸出金動向

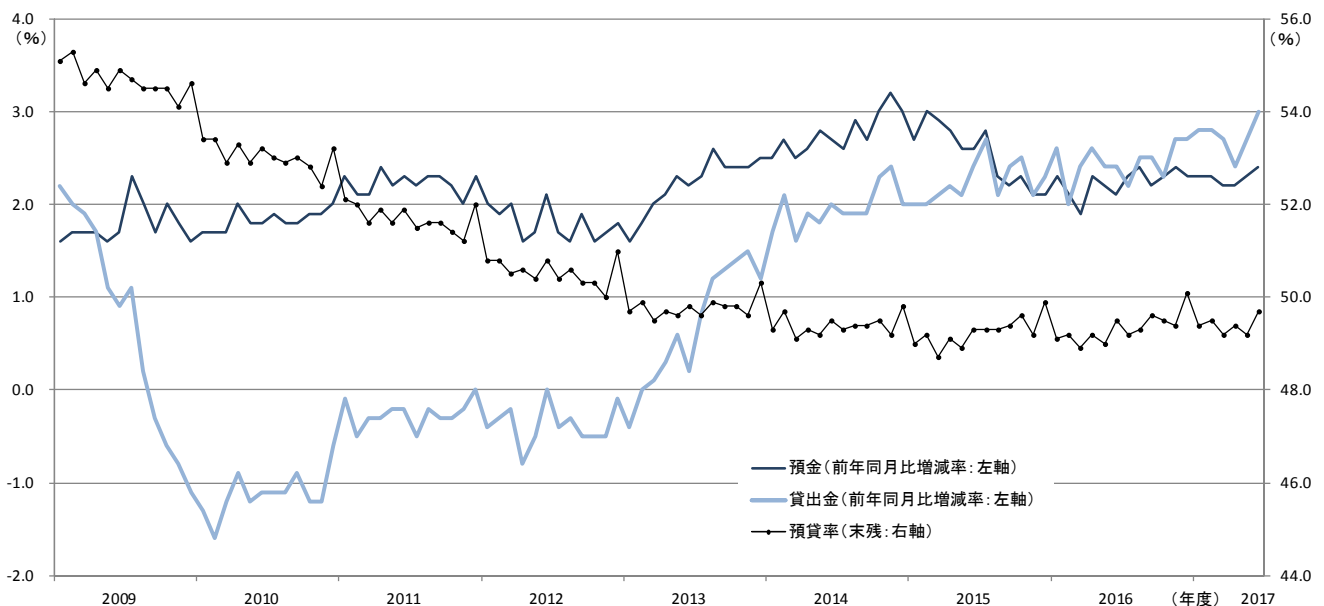
2017年9月末の全国信用金庫の預金残高は141.1兆円となった。6月末に140兆円に達して以降も増勢を維持しており、過去最高を更新した。前年同月比の預金の増減率は、引き続き2%台を安定的に維持しており、17年9月末は2.4%の伸びとなった(図表1)。

一方、17年9月末の貸出金残高は70.2兆円

となった。70兆円台を回復したのは、99年12月以来、約18年ぶりに(ピークは98年12月の72.8兆円)である。前年同月比の増減率も15年1月以降、2%以上の伸びを維持してきたが、17年9月末は3.0%の高い伸びとなった。伸び率が3%台に達したのは、95年11月以来、約22年ぶりであった。

貸出の伸張により17年3月末に一旦50%台

(図表1) 預金・貸出金伸び率(前年同月末比)および預貸率(末残)の動向



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

を回復した預貸率は、その後預金も相応に増加した結果、9月末には49.7%と、50%をわずかに下回った。

2. 預金の増加要因

17年9月末の預金者別の残高は、預金計の141.1兆円に対し、個人が109.4兆円(77.5%)、法人が25.2兆円(17.8%)、公金が5.3兆円(3.7%)、金融機関が1.1兆円(0.7%)を占めた。

それぞれの増減状況は、個人が前年同月比1.8兆円の1.7%増、法人が同1.6兆円の7.1%増、公金が同▲179億円の▲0.3%減、金融機関が同▲765億円の▲6.3%減と、法人が個人に迫る増加を示した。

預金種別にみた預金全体の伸びに対する寄与度¹は、要求払預金のプラスと定期性預金のマイナス傾向が鮮明である(図表2)。ただ、定期積金が16年6月からマイナスの寄与を拡大させ、17年5月からは定期預金もマイナスの寄与に転じていたものの、それ以降は9月末にかけてマイナスをやや縮小させつつある。

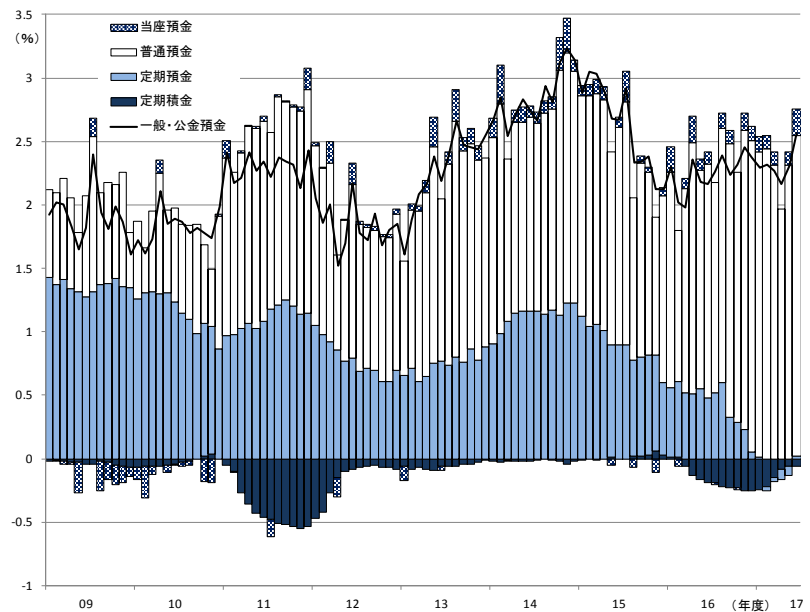
他方、企業向け融資の拡大や定期性からのシフトなどから、要求払預金は寄与度を拡大させた。

4. 貸出金の増減要因

17年9月末時点の貸出状況を割合が上位の業種からみると、貸出金計70.2兆円に対して、個人(住宅ローン)が16.7兆円(23.8%)、不動産業が9.9兆円(14.1%)、製造業が6.2兆円(8.8%)、個人による貸家業が5.9兆円(8.4%)を占めた。

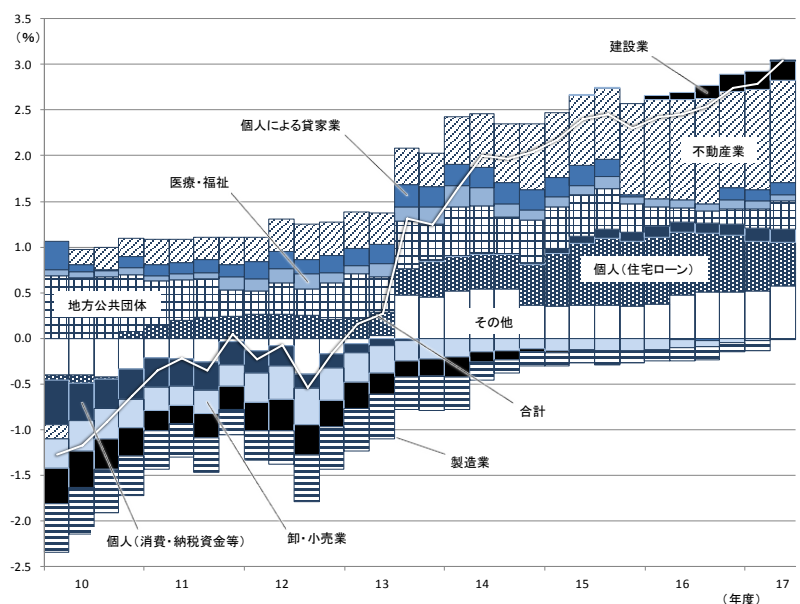
貸付先業種別²に貸出金全体の伸び率に対する寄与度をみると、不動産業や住宅ローンが引き続き大きく寄与しているが、それ以外の業種も全体にプラス方向に移行しつつある(図表3)。建設業や個人(消費・納税資金等)も寄与を拡大しつつあり、永く低迷していた製造業についてもようやくマイナスを脱したほか、卸・小売業(▲0.0%)もほぼマイナスを脱しつつある。

(図表2) 預金種別の動向(前年同月末比の寄与度)



(備考)「預金・現金・貸出金調査表」より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表3) 業種別の貸出動向(前年同月末比の寄与度)



(備考)「業種別貸出金調査表」より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

以上

¹ 預金全体の伸びに対する寄与については、預金種類別の内訳が分からない金融機関預金(全体の0.7%)を除き、一般・公金預金だけで算出した。

² 業種別貸出金調査表における業種分類のうち、大分類「不動産業」と「個人」から、それぞれの小分類である「個人による貸家業」と「住宅ローン」を分けて表示した。また、図に個別に表示されていない業種はすべて「その他」としてまとめて表示した。